

## 第1回江別市学校給食用食器検討委員会 議事録（要点筆記）

1 日 時 令和7年12月18日（木） 午後3時30分から午後4時30分まで

2 場 所 江別市給食センター元野幌調理場 2階会議室

3 出席者 委員長 安部 由里香  
副委員長 工藤 愛  
委員 山本 和彦  
委員 越川 ゆきこ  
委員 小林 道  
委員 小林 周平  
委員 中井 和夫  
委員 和田 陽一

4 事務局 教育部長 佐藤 学  
教育部次長 新山 千穂  
給食センター長 三浦 洋  
対雁調理場長 井上 滋  
センター調理場長 西 聖一  
対雁調理場班長 佐藤 浩治  
業務係長 八木橋 源  
業務係主査 新田 雅樹  
栄養教諭 倉田 幾代  
栄養教諭 西濱 多恵子

5 傍聴者 2名

## 第1回江別市学校給食用食器検討委員会

日時 令和7年12月18日（木）15時30分

場所 元野幌給食センター2階会議室

	内 容
事務局 (三浦 センター長)	<p>ただいまから、第1回江別市学校給食用食器検討委員会を開催いたします。</p> <p>はじめに、教育部長よりご挨拶申し上げます。</p>
佐藤部長	<p>【挨拶】</p>
事務局 (三浦 センター長)	<p>次に、次第6 委員長及び副委員長の選出に入りますが、委員長が決定するまでの間、事務局が司会進行を務めさせていただきますが、よろしいでしょうか。</p> <p>【承認】</p> <p>それでは、次第6 委員長及び副委員長の選出について、「江別市学校給食用食器検討委員会設置要綱」第4条の規定により、委員長と副委員長は、委員の互選により決定することとなっております。</p> <p>まず、委員長の選出について委員の皆様から、ご推薦やご意見がある方は挙手をお願いいたします。</p>
小林委員	<p>「事務局案があれば、提案していただいてはどうでしょうか。」</p> <p>【異議なし】</p>
事務局 (三浦 センター長)	<p>それでは、事務局案を提案させていただきます。</p> <p>委員長には、現職校長として学校現場を熟知し、子ども達とも直接接しておられる安部委員をご提案させていただきます。</p> <p>事務局案に対しましてご意見、ご異議がございましたら、お伺いいたします。</p> <p>【異議なし】</p>
事務局 (三浦 センター長)	<p>ご異議がないようですので、委員長は安部委員にお願いすることを決定しました。安部委員長は正面の席へ移動をお願いします。</p>

	(安部委員長、席移動後)
事務局 (三浦 センター長)	<p>それでは、続きまして副委員長の選出に移ります。</p> <p>設置要綱上、「副委員長も委員の互選により決定する」となっています。</p> <p>副委員長の選出について委員の皆様から、ご推薦やご意見がある方は挙手をお願いいたします。</p>
事務局 (三浦 センター長)	<p>こちらも、事務局案を提案させていただいてよろしいですか？</p> <p>【異議なし】</p> <p>副委員長には、大麻西小学校の現 PTA 会長であり、保護者でもあり、子ども達のことによくご存じなことから、工藤委員をご提案させていただきたいと思います。</p> <p>事務局案に対しましてご意見、ご異議がございましたら、お伺いいたします。</p> <p>【異議なし】</p>
事務局 (三浦 センター長)	<p>ご異議がないようですので、副委員長は工藤委員にお願いすることに決定しました。工藤副委員長は正面の席へ移動をお願いします。</p> <p>(工藤副委員長、席移動後)</p> <p>改めて、委員長、副委員長からひと言ずつ挨拶をお願いいたします。</p> <p>【委員長、副委員長挨拶】</p>
安部委員長 工藤副委員 長	
事務局 (三浦 センター長)	<p>【委員長、副委員長挨拶終了後】</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>議事に入ります前に、配付資料のご確認をさせていただきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本日の次第</li> <li>・委員名簿</li> <li>・当委員会の要綱</li> </ul>

事務局 (三浦 センター長)	<p>・事務局連絡先 以上、4点をお配りしております。 また、事前発送の資料をお持ちでない方はお申し付けください。 不足等ございますでしょうか。</p> <p><b>【なれば】</b> 以降の議事につきましては、要綱に従い、委員長に進行をお願いいたします。</p>
安部委員長	<p>それでは、以降の進行をさせていただきます。 次第7 議題についてです。 事務局からの説明を求めますが、説明にあたっては、ある程度区切りながら進めてもらい、あいだに、質疑応答を入れながら、丁寧な議論を行っていきたいと考えますが、委員の皆様いかがでしょうか。</p>
安部委員長	<p><b>【異議なし】</b></p>
事務局 (井上場長)	<p>それでは、事務局より説明願います。</p> <p>はい。次第7 議題についてご説明いたします。 委員長からありましたとおり、説明に当たっては、区切りながら進めてまいりたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。 それでは、江別市学校給食用食器について ご説明いたします。 お手元のカラーで印刷された冊子をご覧ください。</p> <p>スライドの1 目次でございますが、本資料は大きく分けて記載の4つの項目で構成されております。</p> <p>スライドの2 「江別市学校給食用食器検討委員会」の役割についての項目です。</p> <p>スライドの3 当委員会が設立された経緯についての説明になります。</p> <p>平成17年度に小皿をPEN食器に変更しておりますが、この際にPEN食器に対する安全性の不安により、市民団体等から抗議と要望がありました。</p> <p>この小皿を変更した際には、教育委員会内部のみの検討により決定した反省から、今後、食器を変更する際には計画の段階から情報を公開し、有識者、保護者の代表が参加する検討委員会を設置して、安全性を検討することとなり、以降の食器変更、更新の際には検討委員会を開催しております。</p>

事務局 (井上場長)	<p>検討委員会は、「児童及び生徒に対し、安心して提供できる学校給食用食器の選定について検討を行うこと」を目的とします。</p> <p>スライドの4では、検討委員会委員を各団体等にお願いしている理由を記載しておりますので、ご確認願います。</p> <p>スライドの5からは、現在、当市の給食で使用している食器についてになります。</p> <p>スライドの6 当市の食器の変遷について、表にしてあります。 平成13年3月までは、食器は2種類で、2つともポリプロピレン樹脂のプラスチック食器を使用していました。</p> <p>平成13年4月から小皿、中皿、カップの3種類を毎日使用することに変更し、小皿と中皿は天然石食器という、天然石とプラスチックを複合した食器を使用、カップは強化磁器食器を使用していました。</p> <p>平成19年に小皿をPEN食器に変更しましたが、当時、PEN樹脂は新しい素材であり、個別規格が無いことから、健康に悪影響がないかがはっきりしないとして、平成24年度に強化磁器食器に変更となつており、平成24年から3種類とも現在の強化磁器食器を使用しています。</p> <p>スライドの7 この強化磁器食器には給食用の食器として、たくさんの良いところがあります。化学物質が溶け出す恐れがないところ、薬品に強いところ、硬く傷がつきにくいところという長所があり、毎日、たくさんの食器を扱う調理場において望ましい長所です。</p> <p>また、破損を通じて物を大切にするという教育効果もあると思われます。</p> <p>ただ、この非常に優れた食器にも欠点があり、割れることと、重いことです。</p> <p>本日、現在使用している強化磁器をひとクラス分、こちらに用意しています。カップは小学生用と中学生用で大きさが違い、今回は小学生用です。クラスの人数は35名として、それぞれ35枚用意しました。</p> <p>皆様、手に取って確認してみてください。</p>
各委員	～ 食器確認 ～
事務局 (井上場長)	これで説明を一区切りとさせていただきます。

安部委員長	ただいま事務局から「本委員会の役割」と「給食に使用している食器」について説明がありました。質問や確認したいことなどがあれば、ご発言願います。
小林委員	強化磁器食器の良いところとして、破損を通じて物を大切にする教育的効果があるという説明がありましたが、学校現場では実際にそういう教育をされていますか。壊れやすいから気をつけましょうねといったような。それは統一して行われているものなのですか。
山本委員	行われています。 割れるということが前提なので、子ども達に扱いに関しては、丁寧・大切に扱うという指導をしています。本校だけではなく、同じような食器を使う学校ではどこでも指導されていると思います。
小林委員	その件に関して、自分も10年給食と教育を現場でやっていますが、私は今回初めて食器の入ったカゴを持ってみて、驚くほど重いので、子どもが大切に扱うということでしたが、逆に緊張しちゃって扱いづらいとか、現場ではそんなことはないものですか？
山本委員	スムーズというか慣れているので、大切に扱うことを前提としながら、重たいからといって配膳の作業が遅くなるとか、何か不自由があるといったことはないです。
越川委員	給食試食会で何回かワゴンで運ばれて配膳をしたことがあります、実際、あのカゴは凄く重いですが、私達のときはワゴンに乗ったまま食器をずらして配膳していましたが、学校現場では子ども達が配膳するときはどういう形で配膳していますか？
山本委員	ワゴンで廊下のところまで配膳員さんに運んでいただき、そこからワゴンごと教室中に入れまして、長机などにカゴを持って乗せていて、カゴを持って長距離を歩くということは、ほぼないです。 場所をずらす、位置をずらすという程度で、低学年でも無理なく活動できているのかなという感じです。
安部委員長	それぞれ、自分のところに運ぶことについては、手で持つて運びますので、学年による差も若干あると思います。大きな学年については私達とそんなに変わりありませんが、小さな学年にとっては大きいのかな、とも思います。小学校ですと1年生から6年生までいますので。

中井委員	<p>強化磁器の欠陥だけが説明されていて、割れるとか重いとか。小学生の1年生と6年生で違う。高学年なら強化磁器で充分ではないか。</p> <p>それから、この前に学校給食の在り方検討委員会が行われていたかと思うが、その中で食器についてどのような意見が出ていたかを教えてもらうと議論が進むと思いますが。</p>
事務局 (井上場長)	<p>確かに小学1年生と6年生、または、中学生では筋力等が違いますので、運びやすさとかそういう面は、はるかに楽になります。</p> <p>また、長く配膳作業をしていて学んでいくという点でも楽になっていくのかな、と思います。最初は大変だと思いますが。</p> <p>在り方検討委員会では給食の全体的なことを協議していただきました。</p> <p>その中で食器に特化した議論は行われず、食器選定の検討については、この食器検討委員会で検討いただくということになっていました。</p>
安部委員長	<p>他に、質疑等はございませんか。</p> <p>(なし)</p>
安部委員長	<p>それでは、引き続き事務局から説明願います。</p>
事務局 (井上場長)	<p>はい。それではスライドの8になります。</p> <p>今回、委員会を開催した理由をご説明いたします。</p> <p>次にスライドの8 今回、委員会を開催した理由、について説明いたします。</p> <p>スライドの9 学校給食を提供するにあたり必要不可欠な要素です。</p> <p>令和6年度に開催された「学校給食の在り方検討委員会」では、江別市の学校給食に何が必要不可欠なのかについても議論がなされました。</p> <p>そこでは、「安全、安心、安定」が給食を提供するうえで大前提であるとされています。</p> <p>安全、安心、安定を維持するためには食材はもちろんですが、提供する食器も重要です。</p> <p>例えば、得体のしれない素材で作られている食器、これは安心できません。</p>

事務局 (井上場長)	<p>例えば、触れると人を傷つけるような食器、これは安全ではありません。</p> <p>例えば、今回は入手できたけど、以後入手が困難な食器、これは壊れてしまったら終わりとなり、安定ではありません。</p> <p>このような食器ではなく、安全、安心、安定を維持できる食器を、学校給食では使用しなくてはならないと考えています。</p> <p>現在使用している強化磁器食器について、配膳中に割れてしまうことによって児童・生徒の事故に繋がりかねない事案が生じていることを検討委員会にご報告させていただきます。</p> <p>スライドの10 強化磁器食器の取り扱いですが、恐ろしいのは、配膳の際に割れたときに欠片が食缶に混入して、児童・生徒がそれに気づかずに入ってしまう危険性があることです。</p> <p>このような事故を防止するために江別市では、調理員による洗浄時の慎重な確認、教職員による児童・生徒への適切な指導が行われており、江別市では大きな事故は、これまでに発生していません。</p> <p>しかし、調理員がどれだけ慎重に確認しても、目に見えないような微細なひび割れ、見た目に変化はないが、経年劣化により脆弱化している食器を発見することは困難です。</p> <p>その結果、学校に食器が配送された時点で食器が割れていて、他の食器に破片が散っていた事案や、児童・生徒が丁寧に取り扱っていたにも関わらず、配膳時に食器が割れて食缶などに欠片が混入する事案は江別市でも発生しています。</p> <p>スライドの11 強化磁器破損により発生しているアクシデント(事故)事案の紹介です。</p> <p>今年の6月に小学校で起きた事案です。</p> <p>1年生が配膳しているときにカップの底が抜けるように割れて、そのときは吉野汁をいっていた食缶の中に破片が落ちてしまいました。</p> <p>破片は取り除きましたが、万が一、欠片が入っているかもと考えた担任教諭がその食缶からの配食は中止し、他のクラスから分けてもらって給食を完了しました。</p>
---------------	---

事務局 (井上場長)	<p>この事案では、担任の先生が適切な対応をしてくれましたが、「食べ物を無駄にしたくない」という気持ちから、この食缶を使い続けてしまった場合、見つけられなかつた欠片を児童が飲み込んでしまうという、大事故につながる危険がありました。</p> <p>このような事案は年に10件程度発生しており、それ以外に単純に食器が割れたという報告は年間で1,300件程度発生しています。</p> <p>スライドの12には割れた食器の写真を掲載しています。上の微細なひび割れは、うっすらとひびが入っている状態で、触ってもわからないような感じでした。</p> <p>下の写真はさきほどのスライド11の事案で紹介した食器です。</p> <p>スライドの13です。江別市では欠片を口の中にまで入れた事案は、まだ発生していませんが、他市では口の中にいれてから吐き出した事案が発生しています。児童には急いで食べる子も多くいることから、飲み込まなくて良かったと思います。</p> <p>スライドの14です。繰り返しになりますが、江別市では、児童・生徒の大けがに繋がるような事案は発生していません。</p> <p>ただ、給食を広域かつ多数に配達しなければならない当市の状況では、調理場で細心の注意を払っても、割れるということを防ぐことができず、給食に破片が混入する可能性を排除できないのが現状です。</p> <p>それを踏まえて、児童・生徒に提供するうえで、このまま強化磁器食器を使用して良いか、</p> <p>あるいは耐衝撃性、原材料など多面的に考えたうえで、より良い食器はないのか、ご意見、ご検討をいただくことが、今回、当委員会を開催した理由になります。</p> <p>スライドの15です。これまで検討委員会では色々な種類の食器の検討が行われてきました。</p> <p>表には、これまで検討されてきた食器について、江別市では学校用給食食器として、採用しないとした理由を記載しています。</p> <p>これらの食器と比較検討したうえで、強化磁器食器が選択され、現在も使用しています。</p> <p>説明は以上ですが、ここで実際に学校で割れた食器をご覧いただきます。どんな風に割れるのかについて参考にしてください。</p>
---------------	--

各委員	～ 細かく割れた場合の食器を確認 ～
事務局 (井上場長)	説明は以上になります。
安部委員長	ただいまの事務局からの説明に対し、質問や確認したいことなどがあれば、ご発言願います。
和田委員	そちらに、色のついた食器がありましたが、食器洗浄の際の漂白作業というのはどのくらいの期間とか、何を使って実施されていますか。
事務局 (西場長)	現在は塩素を使っています。
和田委員	学期に1回くらいですか。
事務局 (西場長)	汚れたものは塩素を使って定期的に行い、学期始めには違う薬品を使って漂白洗浄を行っています。
越川委員	いま、バラバラになった食器を見せてもらいましたが、これは落として割れたということで、他に資料では抜け落ちて割れた食器がありましたが、令和7年とか比較的最近の事例ということで、最近になってそういう事例が多くなってきたということでしょうか。 耐用年数は無いという説明でしたが、経年劣化によるものということなのかなとも思いました。目に見えないダメージみたいなものがあって、普通に扱っていたのに突然割れて、食缶の中に入ってしまう、というような事例が最近増えてきたのかについて教えてください。
事務局 (井上場長)	事例として新しいものを掲載しましたが、前から発生しています。 経年劣化に関しては、やはり物ですのでダメージが重なっていくということで、あるかと思います。ただ、必ずしも古い食器から割れていくというものではありません。
越川委員	食器を洗うときは機械で洗うのですね。そういうときのダメージが重なっていくという感じでしょうか。
事務局 (井上場長)	洗浄のときだけではなく、配送などもあると思います。重ねられて下になったものなどは負担がかかります。そういうことで、たまたま負

事務局 (井上場長)	担がかかることが多くなった食器などダメージを受ける機会が多いものだったのかな、と思います。
中井委員	スライドの15についてですが、今まで検討した食器を掲載されていますが、では、これに代わる食器について何か情報はありますか。
事務局 (井上場長)	<p>第1回目の委員会では、現在使っている強化磁器食器について現状を知っていただきたく、説明いたしました。</p> <p>今後、第2回の委員会では、皆様に、では安全を確保するうえで、どんな方法があるのだろうかということ、または、違う食器ということでは、どんな食器があるのだろうか、ということをご検討願いたいと考えています。</p> <p>第2回委員会は1月末から2月くらいに開催する予定で、委員の皆様には大変恐縮ですが、それまでの間、ご自分でも食器について興味を持って調べていただき、こんな食器も見たのだけれども、といったような形でご検討いただければと思います。</p> <p>その参考となるように、追加資料を配布いたします。</p>
	～ 追加資料配布 ～
事務局 (井上場長)	<p>先ほど中井委員から、他にどんな食器があるんだろうか、というご質問もありましたので、その参考にもなるかと思います。</p> <p>スライドの1 道内の状況についてですが、道内35市のうち、プラスチック製の食器を全く使用していないのは、江別市と石狩市の2市のみになります。</p> <p>近隣市では北広島市が中学校の食器に強化磁器食器を使っています。</p> <p>スライドの2と3 全国の使用状況ですが、主流となっているのは陶磁器とPEN食器で2011年ころからPEN食器が陶磁器を上回り、現状は50%を超える割合となっています。</p> <p>スライドの4と5 材質別の特性比較表ですが、現状で学校用の給食食器として、ある程度流通している食器の特性を比較したものになります。</p> <p>表の上から4つめ、表面硬度はこの硬さの鉛筆で引っかいたときに傷がつく目安と思ってください。ポリプロピレン食器ならHBの鉛筆で引</p>

事務局 (井上場長)	<p>つかいたら傷がつき、強化磁器なら7Hの鉛筆で引っかかないと傷がつかない、というように数字が高いほど表面が硬いということになります。</p> <p>そのほかのそれぞれの項目については、後ほどご確認をお願いしたいと思います。</p> <p>また、先ほどお配りした、スライド15に掲載したPEN食器に関して、過去の検討委員会では、個別規格がなく、安全性に疑問が残るということで、採用を見送られていましたが、平成28年度に個別規格が設定され、状況が変わっているということをお伝えします。</p> <p>資料とあわせて第2回検討委員会に向けた参考にしてください。</p>
安部委員長	ただいま事務局から詳しい説明がありましたが、質問や確認したいことなどがあれば、ご発言願います。
和田委員	<p>わかりやすい資料ありがとうございます。先ほどもお伺いしましたが、漂白について、塩素系と酵素系があって、プラスチック食器だと塩素系の扱いが難しいということだったかと思います。</p> <p>あと、自分も家では35年前に作られた陶器の食器を使っていて、給食で使うのとは、また違うと思うが、それぞれに良さがあると思っています。</p> <p>漂白というのはプラスチックだとどうなのでしょうか。第2回までに自分でも調べてみますが。</p>
事務局 (井上場長)	<p>私も専門的に詳しくはなく、食器業者に聞き取りしたところ、一番耐薬品性で強いのは強化磁器食器だが、プラスチック食器でも溶け出すとかそういうことは無い、と聞いております。</p> <p>ただ、傷とかがついた場合、そこに洗剤が染み込んでしまうケースが考えられるということは可能性としてあるが、それで人体に影響ができる成分が染み出るかというと、また違う問題になるということです。</p>
和田委員	食器の洗浄は高温で行われると思いますが、最高何度くらいで行われますか。
事務局 (西場長)	機械の設定が現在、75度です。
和田委員	浮かせたりとか洗浄作業とか全ての工程を含めて、最高75度ですか。

事務局 (西場長)	消毒については、85度以上になります。洗浄だけとなると75度の機械設定になっています。
小林委員	<p>質問ではないのですが、有識者枠で出席しているということで発言します。給食は170万食くらい作られていて、9,000食というのは1日で提供する数かと思います。</p> <p>給食現場というのは本当に異物混入とか食中毒に非常に敏感です。</p> <p>異物にも種類があり、使い捨ての手袋とかが混入した場合は、危険異物とはいわないですが、刃とか陶器の欠片というのは危険異物なので、給食側としては絶対に混入させたくないのです。</p> <p>そういう意味でもしっかりと検討しなくてはいけないということで、割れた食器の欠片というのは、かなり危険な異物ということを委員の皆様にも認識していただければと思います。</p>
安部委員長	<p>次回までに我々も色々な情報収集が必要だと思います。</p> <p>他に確認しておきたいことはありますか。</p>
中井委員	<p>いただいた資料の中でメラミン食器について、硬い、高温に耐えるということになっていますが、メラミンについては、割れたり、欠けたりしたら出てはいけないとされている成分が出てしまう可能性がある。</p> <p>これは次回、メラミンが提案されたら言えばいいかもしれませんけれども。</p> <p>メラミンについては硬くて割れないというだけで、全てが良いというわけではないということを申し上げます。</p>
安部委員長	<p>情報提供ということで、ありがとうございます。</p> <p>いただいた資料について次回までにしっかりと目を通していくだけたら、と思います。</p> <p>他に確認しておきたいことはありますか。</p> <p>(なし)</p>
安部委員長	事務局に確認ですが、今回の委員会で話を詰めるのではなく、各委員がそれぞれ考えておき、第2回の委員会で意見を持ち寄り、検討することによろしかったですか。
事務局 (井上場長)	はい。そのようにお願いします。

安部委員長	<p>委員の皆様もそれでよろしいでしょうか？ (異議なし)</p> <p>それでは次第の7 議題について終了いたします。</p> <p>次に、8 その他 ですが、委員の皆様からご発言ございますか。</p> <p>(なし)</p> <p>事務局からございますか。</p> <p>事務局 (三浦センター長)</p> <p>次回の開催について、ご連絡いたします。 先ほどの説明でもありましたが、第2回委員会を来年の1月末、あるいは2月初めに行う予定です。改めて事務局より、各委員へ日程調整のご連絡をさせていただきますので、どうぞよろしくお願ひいたします。 事務局からは以上でございます。</p> <p>安部委員長</p> <p>各委員におかれましては、各自で第2回のご準備をお願いします。 それでは、以上で第1回委員会を閉会いたします。 本日はありがとうございました。</p>
-------	---